

事業所における自己評価総括表

○事業所名	日野市発達・教育支援センター エール 児童発達支援事業 通園「きぼう」		
○保護者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和8年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 26
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○ほとんどの保護者が、子どもの状況について職員と共通理解ができていると捉えている。	○連絡帳のやり取りや電話、見学・参観時の会話など保護者と様々な方法・機会でも共通理解を図っている。	○関わる機会の少ない保護者との共通理解について、さらに工夫する。
2	○子どもが喜んで通所し、保護者が支援に満足している。	○日々、個々の幼児に合わせた無理のない活動の設定や発達支援を積み重ねている。	○引き続き、アセスメントや支援計画作成の確実な実施、活動プログラムの工夫等を図る。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○他施設の園児との直接交流がほとんどない。	○個々の利用児の特性や現況に配慮しつつ、交流相手と互恵がある交流を行うことは難しい面がある。	○交流相手や交流の方法を検討する。
2	○利用児きょうだいへの支援や放課後デイサービスの探し方を保護者へ知らせる取り組みなど、一部保護者に伝わっていない取り組みもある。	○取り組みの伝え方に課題がある。	○取り組みの伝え方(方法、時期、回数など)を見直す。
3			